

◆◆保育所の再編に関する説明会◆◆

1 公立保育所における現状と課題

(1) 公立保育所利用児童数の推移

公立保育所の利用児童数は、人口減少に伴い3歳以上児は今後も減少する見込みですが、3歳未満児は、核家族化や共働き世帯の増加などにより増加する見込みです。そのため3歳以上児では、子どもの成長に適した集団での保育が困難になっている園があり、3歳未満児では、待機児童が発生する可能性が高い状況です。

表1 保育所利用児童数の推移（各年度3月31日現在） (人)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7見込	R8見込	R9見込	R10見込	R11見込	R12見込
0歳	20	17	21	16	22	18	18	18	18	18	18
1歳	42	51	42	46	47	44	49	51	53	56	59
2歳	62	53	54	56	55	57	49	55	57	60	63
3歳	79	83	77	84	77	74	64	53	56	56	56
4歳	102	78	85	79	85	76	79	64	53	56	56
5歳	113	105	79	86	80	82	84	79	64	53	56
合計	418	387	358	367	366	351	343	320	301	299	308
前年差	△15	△31	△29	9	△1	△15	△8	△23	△19	△2	9
3歳未満児計	124	121	117	118	124	119	116	124	128	134	140
3歳以上児計	294	266	241	249	242	232	227	196	173	165	168

(2) 長時間（延長）保育の状況

大町市の公立保育所では、全ての園で、7:30から19:00まで開所し、早朝と夕方の長時間（延長）保育を実施しています。共働き世帯が増加する中、いずれの園においても、早朝・夕方とも利用者がおり、ニーズの高い事業となっています。

表2 長時間（延長）保育の利用状況

園名	早朝(7:30~8:30)		夕方(16:30~19:00)	
	3歳未満児	3歳以上児	3歳未満児	3歳以上児
はなのき保育園	20	30	12	25
あすなろ保育園	10	22	5	10
しらかば保育園	1	8	1	8
どんぐり保育園	3	8	4	9
たけのこ保育園	2	2	2	2
くるみ保育園	7	15	2	15
合計	43	85	26	69
全児童に占める割合	43.9%	36.2%	26.5%	29.4%

(3) 保育士の配置状況について

令和7年4月1日現在で大町市の公立保育所で勤務する保育士は、92人中、45人が正規職員、47人が会計年度任用職員で、会計年度任用職員のうち、60歳以上の職員が27.7%、65歳以上の職員が21.3%となっています。特に、長時間保育を担う保育士と保育補助（資格を有しない者）は、60歳以上が58.8%となっており、年々職員数が減少している状況です。

全国的に未満児保育の需要が増加する中、近隣自治体も保育士の確保に苦慮しており、大町市も同様の状況です。未満児保育や長時間保育のニーズが高まりを受け、このままでは、待機児童が発生することや長時間保育が維持できなくなることが想定されます。

2 公立保育所の目指す姿

乳児期の愛着形成や幼児期の集団保育の重要性を認識し、保護者の就労時間等に応じ、安心安全に子どもを預けることのできる保育施設を維持することを考慮した上で、公立保育所の目指す姿を次のとおりとしました。

年齢に応じた適切な集団保育の実施と異年齢クラスの解消

3歳未満児の保育：保育士が一人ひとりの子どもの気持ちを受容し、丁寧に寄り添うことを大切にします。親子の愛着形成が大変重要な時期であるため、保護者と信頼関係を構築し、親子の愛着形成を推進するための支援を行います。

3歳以上児の保育：友達と遊ぶことが増え、同年齢での集団保育の必要性が高まります。年齢に応じた集団で適切な活動を提供し、社会性、協調性、コミュニケーション能力、自己肯定感を育みます。

異年齢クラスの解消：体格や体力面の違い、安全性の配慮から活動が制限されている状況を解消し、年齢や発達に適した活動を提供することで、子どもの健やかな成長を促します。

長時間保育や一時預かりなど多様な保育の維持・拡充

長時間保育の維持：保育士不足により、今後5年以内に7:30~19:00の保育が困難になる見込みです。保護者の就労時間に応じた保育を実施することは、保育所の存在意義に関わるため、保育士の集約化により、現在の保育時間を維持します。

一時預かり事業など多様な保育の拡充：保育所では、一時預かり事業や園開放などさまざまな事業を実施しており、令和8年度からはこども誰でも通園制度が始まります。保育施設に入園していない家庭も含めた子育て環境充実させるため、様々な事業を拡充します。

高まる未満児保育のニーズへの的確な対応

核家族化や共働き世帯の増加などにより、3歳未満児の保育ニーズは、一層高まると想定され、今後、待機児童が発生する可能性が高い状況です。保育士の集約化により、3歳未満児の保育ニーズに的確に対応し、待機児童ゼロを実現します。

民間保育施設との連携による子ども中心の保育・教育環境の整備

認定こども園等との連携を深め、それぞれの長所を最大限に生かすことで、未就園児を含めた全ての子どもたちのニーズに応じた保育・教育環境を整備し、今後の子育て環境をより一層充実させます。

待機児童が発生することなく、家庭と保育所の信頼関係のもと
子どもの生きる力を育む保育の実現

3 公立保育所再編に向けた現状と課題の整理

公立保育所の目指す姿を実現し、将来にわたり安心・安全な保育を維持するためには、保育士を集約化し、未満児保育や長時間保育のニーズに適切に対応すること、その上で、年齢に応じた適切な集団で質の高い保育を行うことが大切です。そのためには、保育所の再編が必要であることを確認し、現状と課題を整理しました。

(1) 保育施設の利用状況

はなのき保育園、あすなろ保育園、くるみ保育園は、利用者が多く、異年齢でクラスを編成することなく、全ての年齢で利用されています。しらかば保育園、どんぐり保育園、たけのこ保育園は、定員の半数以下の利用で、異年齢でクラスを編成しており、近年は3つの年齢階層を同じクラスで保育する状況も生じています。

表3 保育施設の利用状況（令和7年3月末）※色付は異年齢構成クラス（人）

施設名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
はなのき保育園	8	19	20	26	26	18	117
あすなろ保育園	7	17	9	24	27	32	116
しらかば保育園	2		8	5	5	8	28
どんぐり保育園		3	2	4	7	6	22
たけのこ保育園			1	5	3	8	17
くるみ保育園	5	8	15	13	17	8	66
公立保育所計	22	47	55	77	85	80	366
大町幼稚園		2	6	10	17	11	46
こまくさ幼稚園			14	11	18	21	64
りんどう幼稚園			14	12	15	20	61
きらり大町総合病院園	3		1				4
民間保育施設計	3	2	35	33	50	52	175

(2) 地域別の現状と課題

市内の地域別の今後の利用者数の推移、保育所の利用状況、通園距離などの現状と課題について検討しました。

ア 大町地区

大町地区の2歳以上の保育施設利用者数は、今後も200人前後で推移し、他地区と比較して最も多いことが見込まれます。保育施設の利用状況では、はなのき保育園とくるみ保育園が多く、認定こども園3園の利用も一定程度あります。

表4-1 大町地区2歳以上の利用者数の見込み（人）

年度	R8			R9			R10			R11			R12		
	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計
2歳	5	31	36	7	37	44	6	35	41	6	36	42	6	38	44
3歳	10	39	49	9	37	46	11	43	54	10	39	49	10	39	49
4歳	12	50	62	9	40	49	9	37	46	10	44	54	9	40	49
5歳	11	46	57	12	50	62	9	40	49	9	37	46	10	44	54
計	38	166	204	37	164	201	35	155	190	35	156	191	35	161	196

※1号認定児：3歳以上で2号認定児以外の児童（教育認定で4時間程度利用）

※2号認定児：3歳以上で就労等により家庭で保育を受けることが困難な児童

※3号認定児：3歳未満で就労等により家庭で保育を受けることが困難な児童

表 4-2 大町地区児童の保育施設の利用状況（令和7年3月末）（人）

施設名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
はなのき保育園	7	12	14	22	22	17	94
あすなろ保育園	1	2	1	2			6
しらかば保育園			1	2	1		4
どんぐり保育園		1		1		2	4
くるみ保育園	4	5	11	8	10	5	43
大町幼稚園		2	4	5	10	5	26
こまくさ幼稚園			10	6	9	16	41
りんどう幼稚園			6	4	8	5	23
きらり大町総合病院園	1						1
市外施設	1					1	2
合計	14	22	47	50	60	51	244

イ 平地区

平地区の2歳以上の保育施設利用者数は、令和10年度以降40人程度で推移することが見込まれます。保育施設の利用状況は、りんどう幼稚園の利用が多く、くるみ保育園としらかば保育園は、それぞれ20人程度の利用があります。平地区北部からでも、りんどう幼稚園、しらかば保育園、くるみ保育園は車による30分以内の通園が可能です。

表 5-1 平地区2歳以上の利用者数の見込み（人）

年度	R8			R9			R10			R11			R12		
	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計
2歳	1	7	8	1	6	7	1	6	7	1	7	8	1	7	8
3歳	3	10	13	2	9	11	2	7	9	2	7	9	2	7	9
4歳	5	21	26	2	11	13	2	9	11	2	7	9	2	7	9
5歳	3	12	15	5	21	26	2	11	13	2	9	11	2	7	9
計	12	50	62	10	47	57	7	33	40	7	30	37	7	28	35

表 5-2 平地区児童の保育施設の利用状況（令和7年3月末）（人）

施設名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
はなのき保育園		1	2	1	2		6
しらかば保育園	1		5	2	3	5	16
くるみ保育園	1	2	4	4	6	3	20
大町幼稚園						2	2
こまくさ幼稚園			1		1	1	3
りんどう幼稚園			8	5	6	10	29
きらり大町総合病院園	2		1				3
合計	4	3	21	12	18	21	79

ウ 常盤地区

常盤地区の2歳以上の保育施設利用者数は、令和10年度以降80人前後で推移することが見込まれます。保育施設の利用状況は、あすなろ保育園の利用が100人を超え最も多く、認定こども園の利用も一定程度あります。

表 6-1 常盤地区2歳以上の利用者数の見込み (人)

年度 認定別	R8			R9			R10			R11			R12		
	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計
2歳	3	15	18	2	13	15	3	15	18	3	16	19	3	16	19
3歳	5	22	27	4	18	22	4	14	18	4	17	21	4	17	21
4歳	5	20	25	5	22	27	4	18	22	3	15	18	4	17	21
5歳	6	24	30	5	20	25	5	22	27	4	18	22	3	15	18
計	19	81	100	16	73	89	16	69	85	14	66	80	14	65	79

表 6-2 常盤地区児童の保育施設の利用状況 (令和7年3月末) (人)

施設名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
はなのき保育園			3	2		1	6
あすなろ保育園	5	13	7	20	25	31	101
どんぐり保育園		1					1
大町幼稚園			2	2	4	1	9
こまくさ幼稚園			1	5	3	3	12
りんどう幼稚園				1	1	2	4
市外施設		1					1
合計	5	15	13	30	33	38	134

エ 社地区

社地区の2歳以上の保育施設利用者数は、30人に満たない状況で推移することが見込まれます。保育施設の利用状況は、どんぐり保育園が17人と最も多い状況ですが、他地区の公立保育所や認定こども園の利用も一定程度あります。社地区から大町地区中部や常盤地区に設置された保育所への移動に関しては、車による20分以内の所要時間で通園が可能です。

表 7-1 社地区2歳以上の利用者数の見込 (人)

年度 認定別	R8			R9			R10			R11			R12		
	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計
2歳	0	2	2	1	4	5	1	4	5	1	4	5	1	5	6
3歳	1	6	7	1	2	3	1	5	6	1	5	6	1	5	6
4歳	2	10	12	1	6	7	1	2	3	1	5	6	1	5	6
5歳	1	6	7	2	10	12	1	6	7	1	2	3	1	5	6
計	4	24	28	5	22	27	4	17	21	4	16	20	4	20	24

表 7-2 社地区児童の保育施設の利用状況（令和 7 年 3 月末） (人)

施設名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
はなのき保育園	1	1	1	1	1		5
あすなろ保育園		2	1			1	4
どんぐり保育園		1	2	3	7	4	17
くるみ保育園		1		1	1		3
大町幼稚園				2	3		5
こまくさ幼稚園			2		5	1	8
市外施設		1					1
合計	1	6	6	7	17	6	43

オ 八坂地区

八坂地区の 2 歳以上の保育施設利用者数は、10 人から 15 人程度で推移すると見込まれます。保育施設の利用状況では、八坂地区の 2 歳以上の児童全員がたけのこ保育園を利用しています。舟場地区や野平地区からたけのこ保育園以外の保育施設への移動に関しては、車でも 30 分以上の所要時間が必要です。

表 8-1 八坂地区 2 歳以上の利用者数の見込み (人)

年度	R8			R9			R10			R11			R12		
	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計
2歳	0	0	0	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	2	2
3歳	1	4	5	0	0	0	1	2	3	1	2	3	1	2	3
4歳	0	1	1	1	4	5	0	0	0	1	2	3	1	2	3
5歳	1	4	5	0	1	1	1	4	5	0	0	0	1	2	3
計	2	9	11	1	7	8	2	8	10	2	6	8	3	8	11

表 8-2 八坂地区児童の保育施設の利用状況（令和 7 年 3 月末） (人)

施設名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
はなのき保育園		1					1
たけのこ保育園			1	5	3	8	17
合計	0	1	1	5	3	8	18

カ 美麻地区

美麻地区の 2 歳以上の保育施設利用者数は、10 人程度で推移することが見込まれます。保育施設の利用状況は、みあさ保育園が休園中のため、しらかば保育園、りんどう幼稚園、大町幼稚園などの利用があります。青具地区から保育施設への移動に関しては、大町地区及び平地区であれば 30 分以内で通園が可能です。

表 9-1 美麻地区 2 歳以上の利用者数の見込み (人)

年度	R8			R9			R10			R11			R12		
	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計	1号	2・3号	合計
2歳	0	3	3	0	1	1	0	2	2	0	2	2	0	2	2
3歳	1	2	3	1	3	4	0	1	1	0	2	2	0	2	2
4歳	0	2	2	1	2	3	1	3	4	0	1	1	0	2	2
5歳	1	2	3	0	2	2	1	2	3	1	3	4	0	1	1
計	2	9	11	2	8	10	2	8	10	1	8	9	0	7	7

表 9-2 美麻地区児童の保育施設の利用状況（令和 7 年 3 月末） (人)

施設名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
はなのき保育園		2					2
しらかば保育園	1		2	1	1	2	7
大町幼稚園				1		2	3
りんどう幼稚園				1		2	3
合計	1	2	2	3	1	6	15

(3) 公立保育所の施設面の課題

公立保育所の保育室は、幼児用に設置されたものが多い状況ですが、0歳児及び1歳児の保育需要の高まりから、再編に当たり**3歳未満児用の保育室を一定程度確保する必要があります。**

また、**しらかば保育園、どんぐり保育園、たけのこ保育園、みあさ保育園は、建築から20年以上が経過し、特にみあさ保育園は老朽化が著しく、運営の再開には、大規模な施設改修又は建替えが必要になります。**

表 10 公立保育所の建築年と保育室の設置状況

施設名	延床面積 (㎡)	建築年	経過年数 R7.4.1現在	保育室数 (室)				定員 (人)
				未満児用	幼児用	子育て支援室等	合計	
はなのき保育園	1937.5	H20	17年	3	6	3	12	150
あすなろ保育園	1815.4	H29	8年	4	6	3	13	180
しらかば保育園	686	H16	21年	1	3	1	5	60
どんぐり保育園	795.1	H11	26年	1	3	2	6	60
たけのこ保育園	597.9	H6	31年	1	3	1	5	45
みあさ保育園	460.42	S61	39年	1	3	0	4	45
くるみ保育園	1456.16	H23	14年	2	4	2	8	110
合計				13	28	12	53	650

4 公立保育所の再編

公立保育所の再編を検討するに当たり、再編後の施設数や利用する保育所を選定する必要があるので、利用状況や地理的な条件、施設面などさまざまな視点から検討を行いました。

(1) 年齢に応じた適切な集団保育のための施設数

令和 10 年度以降、公立保育所を利用する 3 歳以上児は、各年齢 50 人程度で推移するため、3 歳児から 5 歳児までの**子どもの成長に配慮した適切な集団保育を実施することを考慮すると、1 クラス 15 人から 20 人程度とし、市内全体で各年齢 3 クラスを編成することが妥当です。各園にそれぞれの年齢のクラスを編成するためには、3 園以下に再編することが望ましいとされました。**

その場合のクラスを担当する保育士は、現在の配置状況や子どもの状況に即した適切な保育を実施するため、55 人程度が必要になります。

表 11 クラス担当保育士数の推計（保育所の設置数を考慮せず計算）

年度 年齢	R6実績			R9			R10			R11			R12		
	児童数	クラス数	保育士数	児童数	クラス数	保育士数	児童数	クラス数	保育士数	児童数	クラス数	保育士数	児童数	クラス数	保育士数
0歳児	22	3.5	9	18	3	9	18	3	9	18	3	9	18	3	9
1歳児	47	5.5	12.5	47	6	16	49	6	18	51	6	18	55	7	19
2歳児	55	6.5	12	45	4	9	45	4	9	47	4	9	49	4	9
3歳児	77	8.5	12.5	47	3	5	50	3	6	49	3	6	49	3	6
4歳児	85	6.5	12.5	61	3	6	47	3	6	50	3	6	49	3	6
5歳児	80	5.5	9.5	79	4	8	61	3	6	47	3	6	50	3	6
合計	366	36	68	297	23	53	270	22	54	262	22	54	270	23	55

（２）長時間保育（7：30～19：00）を維持するための施設数

令和 7 年 5 月現在において長時間保育を担当する職員は、本来 28 人必要ですが、17 人しか確保できておらず、今後も減少する見込みです。令和 10 年度の長時間保育利用者数の想定から必要な保育士を推計すると、早朝で 22 人、夕方で 15 人が必要となります。

表 12 長時間保育の利用児童数と必要保育士数の推計（令和 10 年度末）（人）

	早朝(7:30~8:30)		夕方(16:30~19:00)	
	3歳未満児	3歳以上児	3歳未満児	3歳以上児
人数	49	57	30	46
職員数	16	6	10	5

※3 歳未満児 3 人に対し保育士 1 人、3 歳以上児 10 人に対し保育士 1 人で配置

今後、長時間保育を維持するためには、通常時間に勤務している保育士の早出遅出シフト勤務の導入が不可欠であり、**現在、通常時間に勤務する保育士 82 人程度の人数で、園長、副園長又は主任、クラス担当保育士、長時間シフト勤務保育士を確保できる施設数にすることが必要です。**

再編後の保育所数に対する必要な保育士の人数を推計すると、4 園以上に再編した場合、異年齢でクラス編成を行うため、1 園当たり少なくともクラス担当保育士が 3 人必要となり、長時間シフト保育士 2 人と園長を加えると、1 園増えるごとに 6 人保育士が必要になります。

このことから公立保育所で**長時間保育を維持するためには、3 園以下に再編することが望ましいとされました。**

表 12-2 再編後の保育所数に対する必要保育士数（人）

保育所数	園長	フリー主任	クラス担当保育士	長時間シフト保育士	合計
2園	2	2	55	22	81
3園	3	3	55	22	83
4園	4	3	58	24	89
5園	5	3	61	26	95
6園	6	3	64	28	101

(3) 未満児保育のニーズに対応するための施設数

3歳未満児の保育需要の増加により、現在の公立保育所全体の未満児用保育室の13室では不足するため、再編に当たっては幼児用の保育室等を未満児用の保育室に改修する必要があります。

再編後の保育室数は、市全体で幼児用保育室を11室程度、未満児用保育室を15室程度は確保する必要があります。現在の公立保育所の保育室数の状況から考慮すると1園又は2園では、改修を行ったとしても保育室数が不足することから、3園に再編することが望ましいとされました。

(4) 再編後に活用する保育所

3園に再編する場合、いずれの保育所を利用するかを検討するに当たり、次の考え方を整理しました。

ア 地理的な条件からの考え方

地理的な条件からは、八坂地区の一部の地域を除き、いずれかの保育施設に車により30分以内で送迎できることを考慮し、市域の北部、中部、南部に1園ずつ再編することが妥当となりました。八坂地区に関しては、30分を超える通園時間となる地域があることから、保護者等の意見を聞いた上で経過措置又は通園対策を検討する必要があると示されました。

イ 利用状況を考慮した考え方

今後の児童数と保育所の利用状況を考慮すると、はなのき保育園（市中部）とあすなろ保育園（市南部）を残すことが必要と示されました。市北部に位置するしらかば保育園又はくるみ保育園では、利用者数が多いくるみ保育園を活用することが妥当とされました。

ウ 保育施設から見た考え方

保育施設の面からは、効率的な維持管理を考慮すると建築年の新しい施設を選択することが考えられ、また、3園に再編する場合の保育室数を考慮すると、保育室数が多い、あすなろ保育園（13室）、はなのき保育園（12室）、くるみ保育園（8室）を活用することが妥当とされました。

(5) 再編の時期と経過措置

公立保育所の目指す姿の早期実現に向けて、保護者や市民への説明を丁寧に実施した上で、できるだけ早く再編を行うことが望ましいとされました。一方で、現在の利用状況等に基づき経過措置等を設けることも考慮する必要があり、特に八坂地区については、通園距離に関して課題があることから、対策を検討する必要性が示されました。

5 再編後の施設の活用

再編後の施設の活用に関しては、市の子育て環境の充実につなげることが重要であると確認し、利用者数の増加と保育室の不足により望ましい支援が実施できていない母子通園施設あゆみ園を再編後の施設に移転し、活用することが有効であると示されました。その場合の活用施設は、現在のあゆみ園の設置場所から近い、しらかば保育園又はどんぐり保育園が適当であるとしました。